

## ボブベックのやさしい投資信託

### 第33回 株式型投資信託のリスク その9

ファンド・オブ・ファンズというタイプの投資信託があります。まだ日本にはそれほど多くの種類のファンドがあるわけではありませんが、今後多めに設定が増えてくる事が十分に考えられます。そこで、今回は、投資家の視点から、このタイプの投資信託について、そのメリット、デメリットを考えてみましょう。

#### (7-E)ファンド・オブ・ファンズ

##### ファンド・オブ・ファンズとは

ファンド・オブ・ファンズとは投資信託に投資する投資信託の事です。手数料の二重取りという批判から以前は禁止されていましたが、投資信託の規制緩和の一環から現在は設定が可能になっています。

##### メリット その1

現在日本には、3000本弱の投資信託が設定されているため、そのうちのどれを買えば良いのが迷ってしまいます。しかし、ファンド・オブ・ファンズの場合は、このファンドが、数多くのファンドの中からリスクとリターンの分析をした上で投資家のリスク許容度に応じたファンドを再設計する事が可能になるのです。

ただ、ファンド・オブ・ファンズはファンドの設定趣旨によって、そのメリットが大きく変わってきます。つまり以下に述べるファンド・オブ・ファンズは、全て限定条件付きだということを理解してください。

##### メリット その2

最低購入単位が大きいファンドを購入するファンド・オブ・ファンズ。大抵の場合、日本の投資信託は最低一口から投資することが出来ます。基準価額が10,000円であれば、一口一万円ですから、この投資単位を更に小さくして欲しいと願う投資家はいないでしょう。しかし、最低

100万円以上でないと投資できないよという投資信託だって存在するのです。バブルの頃には最低500万円以上でないと投資できないファンドだって存在していました。基本的には機関投資家向けという事で投資単位を大きくしているわけですが、そのパフォーマンスが良いのなら、個人投資家だって購入したいと思うでしょう。そんな時には、そういった投資信託を別の投資信託が購入し小口化する事が出来るファンド・オブ・ファンズが効果的なのです。

##### メリット その3

投資対象となるファンドを、相場見通しや経済状況を反映させて入れ替えるファンド・オブ・ファンズ。いくら投資信託は株式投資に比べリスクが小さいと言っても、それなりのリスクはあるのです。そのうえ、3000本弱もある投資信託の中から、ベストのファンドを選ぶ事など一般の投資家には不可能に近いでしょう。そういった時、ファンド・オブ・ファンズが、将来の株式市場を見据えた上で、高いパフォーマンスが期待できるファンドを、その時々に合わせて選択するのであれば、ファイナンシャルプランナーに頼む変わりに、ファンド・オブ・ファンズに投資するという選択肢が考えられるのです。

##### メリット その4

ヘッジファンドのようなリスクの高いファンドに投資するファンド・オブ・ファンズ。ヘッジファンドと言うのはアメリカや日本の規制を離れ、大きくリスクを取って高い収益を狙うものです。新聞でもジョージソロスの名前は聞いたことがあるのではないのでしょうか。こういったヘッジファンドは高い収益を狙える反面、リスクも非常に大きく、最終的には破綻する事だってありえるのです。ノーベル経済学者が参加していた著名なヘッジファンドだって破綻したのです。そこで、ヘッジファンドのようなリスクの高いファンドへの投資の場合、分散投資することで、リスクを小さく出来るのであ

れば、ファンド・オブ・ファンズという投資形態は、機関投資家にとっても、個人投資家にとっても、魅力的なスキームとなるのです。